

独自の技術力を活かして レアメタルスクリームのトップを目指す

～自社ブランドを立ち上げ常に挑戦と変化を追求～

株式会社 タカヤマ

ねじの専門商社としてスタートしたのち、メーカーとしてもビジネスを展開する株式会社タカヤマ。最近ではレアメタルに着目し、高い技術力を活かしてブランド展開を行う同社の概要と事業展開などについて、代表取締役 高山 伸和 氏にお話を伺った。



代表取締役
高山 伸和 氏

御社の沿革や概要などについて お聞かせください

高山：当社は、1939年2月に本所区深川（現在の墨田区）で私の祖父が、ねじの専門商社として高山製作所の社名で創業しています。

そして1943年6月には、事務所を千代田区神田須田町に移転しています。当時のことについては、あまり詳しく聞いていませんが、当時の神田周辺には金物屋やねじ屋などが多く集まっていたり、秋葉原には電子部品などを取り扱う店も多くあったようなので、そういった店と肩を並べるような感じで商売をしていたようです。

そして1947年3月には、葛飾区四つ木に工場を開設し、この頃から少しずつ自社での製造もスタートさせ、メーカーとしての顔をもつようになっていきました。

1948年8月には、事務所を千代田区神田多町に移転し、株式会社 高山商店に組織変更しています。また1950年9月には、株式会社ネジの高山に社名変更しています。

そして1969年6月には、葛飾区白鳥に葛飾営業所を開設し、1977年2月に本社と葛飾営業所を併合しています。当時の葛飾区は、大田区と同じように工業が盛んな地域で、当社と同じように神田から移転するねじ屋も多くいたようです。また工場も規模を拡張するため、1985年に埼玉県三郷市に移転し、現在の体制になっています。

海外への展開は、1991年3月に台湾企業と取引引きをスタートさせ、その後、韓国企業、中国企業と徐々に取引引きを広げていきました。また2014年7月には、中国でのビジネスを円滑に進める目的で、中国の上海市に現地法人として“特科陽馬（上海）商貿有限公司”（以下、タカヤマ上海）を設立しています。

そして2016年12月には、現在の社名である株式会社 タカヤマに変更しています。また2018年1月には、上海市に続き江陰市にも現地法人として“特科陽馬（江陰）機械製造有限公司”（以下、タカヤマ江陰）を設立しています。

これが会社の主な沿革で、私はまったく違う業種

の会社に勤務したのちに、父から引き継いで三代目として代表取締役に就任しています。

祖父や父の代は、規格ねじの販売で価格競争などに対応し、また流通もそれほどしっかりしてなかったため、商社の強みを活かしたビジネスを展開していましたが、時代の流れから流通が良くなるにつれメーカーからの直販も進むようになり、差別化の図れないような状況になってきました。さらに最近では、古くから取引のあるお客様への販売数も、全盛期から徐々に減少してきました。

そのような中、ターゲットを絞った新規開拓も積極的に進めていきましたが、今までのような規格ねじの販売だけではお客様は振り向いてくれないと思いましたので、いたずら防止ねじ、低頭ねじ、ゆるみ防止ねじなど、特殊ねじの取り扱いを始めました。さらに、色々と模索する中でレアメタルに着目し、レアメタルを活用した付加価値の高い部品の製造や加工を行う自社ブランドを立ち上げました。

また、中国に現地法人を設立した背景には、グローバルに部材の輸出入をしたいという目的があったので、タカヤマ上海とタカヤマ江陰を上手く機能させたビジネスに取り組んでいきました。

このように私の代になってからは、今までの事業の継続だけでは厳しい状況になっていたため、常に挑戦と変化を追求した事業展開を進めています。これが、社名を「ネジの高山」から“ねじ”を取って「タカヤマ」に変更した経緯でもあり、規格ねじ以外のビジネスに取り組む布石になっています。

自社ブランドを立ち上げられた経緯と 概要などについてお聞かせください

高山：我々も、自社ブランドをいつかは出したいと思いつつ続けていた中で、お客様のニーズからレアメタルを使ったねじの製造はすでに始めていました。同業の他社では、自社の製品を自社ブランドで展開している所もあり、当社でもレアメタルを使ったねじについてブランド化できないかと社内で検討し、準備を進めていきました。

そして、色々な案が出てくる中で、「レアメタルスクリーン」というネーミングが決まり、その頭文字を

取って『RMS』というブランドでのビジネスをスタートさせています。

ただこの市場は、それほど販売数が見込めるような市場ではなく、材料の価格も高価で、ほとんど失敗が許されないようなケースが多く、他社もほとんど参入していないような状況でした。ものづくりとしては非常に大変ですが、当社の技術力を活かして他社のやらないことに目を向けていくことにより、存在間を示せると考えました。

しかし、最初の2、3年はまったく売れず、展示会に出品してもそれほど見向きもされないような状況でした。そのような中、展示会で大手メーカーの方の目に留まり、受注をいただくようになってからは徐々に売り上げを伸ばしていき、我々も非常に自信が付いていきました。

現在、『RMS』ブランドで展開しているレアメタルの素材は、ハステロイとインコネルが中心になっています。

ハステロイは、ニッケルを主体とし、クロムやモリブデンなど様々な合金成分を添加することにより、耐食性および耐熱性を高めたニッケル合金です。添加する成分の違いにより、ハステロイB、ハステロイCなどの種類があります。当社では、主にクロムやモリブデンなどの含有量を増やしたハステロイCに相当するAlloy C276、Alloy C22の各種ボルト、座金、ナットの規格ねじ、それから製作加工品の製造、販売を行っています。当社のAlloy C276、Alloy C22製各種製品は、高温下での機械的強度が高く、そして耐食性に優れるだけでなく、硫酸や硝酸、塩素などの酸化性雰囲気でも優れた耐久性を誇っています。

またインコネルは、ニッケルを主体とし、クロム、鉄、炭素などの成分を含み、様々な加工材料や鋳物材料としても使われる耐熱/耐蝕合金です。添加するクロム、モリブデンなどの成分の違いにより、インコネル600、インコネル625、インコネル718、インコネルX750などの種類に分けられます。当社では、主にニッケル含有量が高いインコネル600に相当するAlloy 600、インコネル718に相当するAlloy 718製の各種ボルト、座金、ナットの規格ねじ、それからハステロイと同じように製作加工品の製造、販売を行っています。当社のAlloy 600、Alloy 718製各種製品は、高温での高強度/高耐酸化性/耐クリープ性を発揮し、高温域でも高い強度を保持する一方、腐食環境に対して優れた耐蝕性を誇っています。

『RMS』ブランドの製品については、当初は数種類しかありませんでしたが、年々徐々に増やしていくことで、現状では豊富なラインアップを取り揃えています（写真1）。また、需要も当初と比べて伸びている状況です。

現在の主力となる事業について お聞かせください

高山：現在当社では、「金属加工部品」、「レアメタルスクリュー」、「材料／丸棒／板材」、「工具／機械」、「海外調達」、「特殊ねじ」、「規格ねじ」といったカテゴリーを基本にしたビジネスを展開しています。その中で、「規格ねじ」については従来からのビジネスを引き継ぐ形で進めていますが、ブランド展開している「レアメタルスクリュー」とともに特に力を入れているのは、我々の技術力を活かした「金属加工部品」になります。

「金属加工部品」は、当社の自社工場である三郷工場において、5軸NC旋盤／NC複合機／多軸マシニングセンターをはじめとする最新設備と独自の技術力により、切削／複合加工を中心にを行っています（写真2）。また、協力工場による圧造加工にも対応しています。我々が色々なものづくりでご提案する際に、自社のつくり方がベストでない時は、ベストなつくり方をご提案するためにいくつかの協力工場と提携しています。さらに、ねじと一緒に使用される頻度の高いばね製品も取り扱っています。当社では、お客様の要求に沿ったばね製品を試作から対応しています。

そして、今お話ししたのはどちらかというとメーカー的立場の事業展開ですが、商社的立場の事業展開としては、国内での調達だけでなく「海外調達」も行っています。基本的には、中国を中心にアジア各国などから部材や工具／機械などを調達していますが、逆に日本から中国などに輸出するケースもありま

す。これは、タカヤマ上海とタカヤマ江陰といった現地法人をもつ強みから、色々とお話をいただくようになり、中には当社の取り扱い品目以外の製品の案件にも対応したりしています。

最近では、メーカー的立場の事業展開に力を入れている状況ではありますが、商社的立場の事業展開についても、色々と言口を広げていくことで新たなビジネスチャンスに繋げていきたいと考えています。

今後の展開についてお聞かせください

高山：まずは現在も進めていますが、ブランド展開している「レアメタルスクリュー」の製品ラインアップを拡充／拡大していくことです。材質のラインアップをもう少し広げたいのと、種類ももう少し広げていきたいと考えています。

我々の中では「レアメタルスクリュー」に関して、「オンリーワン」から「ナンバーワン」になりたいと思っています。当初は、同業他社も色々やられていましたが、それほど材質や種類も多くなく、そろそろ当社が「ナンバーワン」になったのではという自負はありますが、やはりダントツに「ナンバーワン」になりたいと思っています。「レアメタルスクリューならタカヤマだよ」といった感じで、小規模な会社ではありませんが、「ナンバーワン」を目指していきます。

それから、当社の三郷工場では最新の機械を順次導入しており、三郷工場は今後レアメタルの専用工場にしていきたいと考えています（写真3）。そのため、従来から製造しているレアメタル以外の製品

については、協力工場にお願いするなど、新たな生産体制の構築を進めていきます。

レアメタルは非常に硬く、ドリルもすぐ折れてしまうことが多いですが、我々の中では「ドリルは折れても心は折れないように頑張ろう」といった気持ちで作業を行っており、少しでも作業の負担を減らすために技術改革を行う中で最新機械の導入も進めていきます。

あとは、6月1日は何の日かご存じですか？

実は、6月1日は「ねじの日」になります。ものづくりにおいて欠かせない「ねじ」の重要性を多くの方に知ってもらおうと、「ねじ商工連盟」が1975年7月に制定したことが始まりになります。「ねじの日」が、この日に制定された理由は、1949年6月1日に工業標準化法が制定され、JISにねじ製品類が指定されたことに因んでいます。

こういったことは、業界の方しかご存じないと思いますので、今後はねじ業界を盛り上げる一環として、当社のPRだけでなく業界のPRも合わせて行っていければと思っています。

本日はお忙しい中ありがとうございました。

プロフィール

株式会社 タカヤマ

所在地：東京都葛飾区

URL：http://www.takayamaweb.co.jp

事業内容：金属部品／樹脂部品の製造販売、工業製品／機械／工具の輸出入、など。



写真1 「RMS」ブランド製品の一例



写真2 切削／複合加工品の一例



写真3 三郷工場に導入した最新機械